

令和5年（2023年）度 自己評価・学校関係者評価報告書

3. 幼稚園の教育目標

本園が社会の中で果たす役割

- 幼児の良好な心身・社会性の発育を支援する。
- 園児・教職員・保護者が共に育ち合う場となる。
- 新しく来る世界を見通した教育を推進する。

育む幼児像

- 自分で考え行動する子ども
- 友だちと遊ぶことが大好きな子ども
- 感性豊かな子ども

2. 本年度重点的に取り組む目標、計画

新しい時代に必要な資質・能力の育成と個人と組織のウェルビーイングの実現に向けて幼稚園の教育課程を見直し、教育目標の体现を目指す。

3. 評価項目の達成および取り組み状況

	評価項目	評価と取り組み状況
1	「こどもかいぎ」の積極的な取り組み	◎年長組を始めとして、幅広い形式や内容の対話を行うことが、園児の心的・社会的な成長につながっていると感じる。年中・年少組でも対話の芽を大切にした保育を行なっている。また当園の「こどもかいぎ」の取り組みが書籍で紹介されたことは、成果の一つと言える。今後も「こどもかいぎ」を基盤とした保育環境やカリキュラムの構築に努める。
2	「チームとしての幼稚園」の実践	○各教員は積極的に研修に参加し、向上心を持って職務に取り組んでいる。また、保護者向けには「幼稚園先生体験」の機会を提供する体制を整備した。一方で、行政機関等に関連した事務負担が膨大化しており、事務員の増員や業務の分担によりワークフローの整理を進めている。さらに、学生インターンの受け入れと活用により、保育補助の充足や育成を図っている。

4. 今後取り組む課題

地域社会との信頼関係を築きながら、保育環境のさらなる充実を図る。また、園内の自己評価に留まらず、外部の視点も重視し、様々な視点から当園の利点や改善のヒントを得ることを目指す。公開保育に向けた関係組織との連携を強化し、地域の幼児教育関係者や他校種との連携を深め、より包括的な教育環境を構築していく。

5. 学年ごとの保育の振り返り

学年	重点的に取り組んだことと評価	次年度に向けて
満3歳児	①子どもが何を求めているのか常に配慮して接している。 ②トイレの後や食前の手洗いなど、清潔にする習慣が身につくよう働きかけている。 ③送迎時や連絡帳などで日常的な情報ややり取りを大切にしている。 1人ひとりの思いを受け止め、安心して園生活が過ごせるよう丁寧に関わっている。手洗いなど繰り返し促すことにより自然と生活習慣が身に付き、年少からの園生活にもつながることを心掛けた。保護者様に園での様子を毎日伝えられたことで、コミュニケーションが円滑になり、園児の家庭での健康的な生活や育ちにつながっていると感じる。	静止やせかす言葉を不用意に使わず、余裕を持った保育をしていく。子どもたちがダイナミックに遊ぶ経験や、おもちゃや道具を大事にすることを体験できるようにしていく。
年少組	①食事や排泄などの生活に必要な活動に自ら取り組むよう配慮している。 ②わからないことを子どもが聞けるなど、安心して話ができる雰囲気を作っている。 ③ひとりひとりの興味に合わせて好きなあそびができるようにしている。 個々のペースで楽しみながら生活できるよう、ひとりひとりに合わせた援助をしている。日頃から子どもの声に耳を傾け、様々な素材や玩具を選択して遊べるようにしたりなど、安全基地を意識した環境づくりを行なっている。	引き続きひとりひとりに合わせた対応をしたり、子どもたちの興味・関心の幅を広げたりしていきたい。
年中組	①子どもが自由に歌ったり、踊ったりすることを楽しめるようにしている。 ②四季に応じて、保育室の環境を整えている。 ③ありがとうやごめんなさいなどの言葉を相手の気持ちを大切に指導している。 日頃から園児が自由に歌ったり踊ったりしたり、四季折々の製作や壁面装飾を行ったりした。互いの気持ちを受容し、大切にしながら伝えられるよう指導している。	園児と余裕をもった関わりを心がけたい。また、保護者との意見交換の機会がより持てるようにしたり、園外の方との交流にも目を向けていきたい。
年長組	①友だちとの関わりで、友だちの良さや大切さに気付くようにしている。 ②様々な素材や用具と接し、自分で工夫して遊べるようにしている。 ③ひとりひとりの興味に合わせて、好きな遊びができるようにしている。 こどもかいぎを通して、日常的に話し合いで解決しようとしたり、友だち同士で認め合う雰囲気が高まった。様々な素材や用具をいつでも手に取れるようにしたり、午後の時間を充実させるためにクラブ活動を企画したりして、遊び環境の充実に努めた。	危険を予測した環境づくりについてさらに配慮が必要と感じている。進学に向けて子どもの意欲を高めたり、基本的な生活習慣について家庭との連携を心がけたりしていきたい。

6. 保護者アンケート (有効回答数 115)

(%)

	設問	とても そう思う	そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない
1	子どもは幼稚園に行くのを楽しみにしている。	61.7	36.5	1.8	0
2	子どもは安心して自分の思いを出し、元気に遊んでいる。	64.3	35.7	0	0
3	子どもは友だちや先生と共に過ごすことを楽しんでいる。	74.8	25.2	0	0
4	子どもは基本的な生活習慣が身についてきた。	49.6	47	3.4	0
5	子どもは自分でやってみようとする意欲をもっている。	58.3	38.3	3.4	0
6	子どもは体力が向上したり、たくましさや育ったりしてきている。	55.7	40	4.3	1
7	教師は、子どもや保護者に対して丁寧な言葉遣いや誠実な姿勢で接している。	74.8	22.6	1.6	1
8	教師は、怪我や体調の変化について適切に対応している。	70.4	27	2.6	0
9	れんらくアプリやクラスだより、インスタグラム、スナップスナップ(写真)を通して幼稚園の様子を知ることができる。	53	40.9	5	1.1
10	マザーグースに子どもを安心して預けることができる。	60	36.6	1.7	1.7
11	子育てについて相談することができる。	43.5	44.3	8.6	3.6

7. 第三者評価

教育水準の保証と向上のため、幼児教育に関する外部の専門家に、専門的かつ客観的な立場から当園の保育内容を評価していただいた。

2024年2月22日 年長組公開保育

塚越奈美先生（山梨大学教育学部准教授）
「こどもかいぎ」では、宇宙人と人間という違いがあったとしても共通点がみいだせること（相手への対応は一律ではなく属性や状況などによって変わることを、自分の気持ちもまた同じように変化すること）に子どもが気づくために必要な、適切なファシリテートを担任保育者がおこなっていたと感じました。また、「幼稚園づくり」では、「もっとこうしたら」という大人の考える望ましさに導こうとする働きかけはなく、保育者は子どもたちの意味付けの世界を大事に関わっていると感じました。子どもたちは自由な活動が保障された空間の中で、互いの多様なつもりの世界を認めあいながら楽しそうに制作にあたっていたことが印象的でした。両クラスともに、子どもも大人も居心地のよい穏やかな空気が流れていたと感じました。
「与えられた中で考えるのではなく、関わり合う中で考えることを大事にしたい」という園の方針があり、命を守ること・相手を傷つける行為以外は、ルールも最小限にされていることが印象的でした。そういった保育は実際には難しいことだと思いますが、大人が考える望ましさに近づけるのではなく、子どもの意味の世界を尊重し、互いの存在を認め合える関係づくりが大切にされているからこそ、そういったことが実現できているのではないかと感じました。公開保育では、「幼稚園児にも〜〜ができる」ということを示すことにとどまるのではなく、子どもが自分の持っている力を発揮するためには、保育者（保護者含め）のどのようなかかわりがあるのかという保育哲学ともいえる部分を、ぜひ他園や小学校の先生方にお伝えいただけたらと思います。
山下春美先生（やまなし幼児教育センター主幹・指導主事）
年長児担任の先生方が子どもの思いを大切に、保育を展開していきたいと考えていることが伝わってきました。また、子どもたちも安心して自分を発揮できるように育っていると感じます。保育の一部分のみの参観でしたが、子ども主体の保育をどう展開しているのか、園全体で模索している様子がうかがえます。
子どもの主体的な遊びが、後に発展的・探求的に展開されるには保育者の援助がどうあるのか、子どもの活動をととして、教師が自身の保育をどのように評価し改善を図っているのか、今後お話を聞きたいです。
永田恵子先生（やまなし幼児教育センター）
子どもかいぎも造形活動も温かい雰囲気の中で子どもの思いを尊重するかたちで進められており、日常の保育で作られた担任との信頼関係が感じられました。2時間という短い参観でしたが、落ち着いた年長児としての日々を過ごしていることが分かり、就学に向けての準備もしっかりできているように感じました。
園内の保育者全員が目指す保育や子どもの姿を共有して、これからも子ども主体のより質の高い保育を目指してほしいと思います。